



人は 人を浴びて 人になる

校長 田屋 多恵子

毎月届く本を何気なくのぞくと、小田恒治さんという方が書かれた、「人は 人を浴びて 人になる」という言葉が目に入りました。「人を浴びる」とは、人と交わることなのですが、なんと魅力的な言葉なのでしょう。そこには、今日の情報化社会においては、瞬時に多くの世界中の情報を手に入れることができる反面、人と交わる事が希薄になっているのではないかということが書かれていました。

本年度、羽沢小学校では、ペア学年の交流がもっと盛んになるように、1年生と6年生を隣の教室に配置するなどの工夫をしました。残念ながら他のペア学年もすべて同じようにはできませんでしたが、昇降口配置も交流しやすいように工夫しました。

すると、1年生と手をつないで登校してくる6年生の姿や、休み時間に1年生が6年生に遊んでもらおうと、廊下の前で6年生が休み時間になるのを待っている姿が自然と増えてきて、仲が良いので思わず微笑んでしまうこともあります。しかし、普段から年下の子どもたちと接したことが少ない子どもたちや、年上のお兄さんやお姉さんと接したことが少ない子どもたちは、どのように、またどの程度接してよいかかわらず、自分でその子をひとりじめしようとしていやがられてしまう場合もあるようです。そんな場面で相手を諭している高学年の姿もまた頼もしく感じます。

社会の変化が著しく、日々変容を遂げている中で、学校はもともと昔から変わらない場所でした。時代に合わせて変えるもの、また時代が変わってもかわらないものを見極め、人を「人を浴びて」（人と交流し）育てるために、小学校の今までの常識であったこと見直し、意義や価値を考え、新しい改革をすべき時期になっているのではないかと思うこの頃です。加えて、菅田中ブロックは併設型小学校・中学校となり、中学校との交流も盛んになってきました。小学校の中だけの異学年交流だけでなく中学生との交流の姿も日常的に益々見られるとよいなと考えております。